

## シグマ研究委員会

### 炉定数専門部会全体会合,昭和60年度会合

1. 日 時 昭和61年2月7日(金) 13:30~17:30
2. 場 所 原研本部第1会議室
3. 出 席 者 亀井, 川合(NAIG), 大竹(ISL), 松本(三井造),  
奥村(IHI), 瑞慶覧(日立), 山野(原燃工), 佐々木研  
(MAPI), 松延(住原工), 岡, 中沢, 橋倉(東大),  
竹田, 高橋(阪大), 金城(PNC), 石黒, 吉田, 関, 伊藤,  
長谷川(原研)。  
オブザーバー: 桜井(安解所)  
事務局: 五十嵐, 浅見(原研) 以上23名  
(欠席者: 飯島(NAIG), 中田(川重), 河北(日立), 井上  
(IHI), 加藤(日立), 関雄, 佐々木誠, 宝珠山(MAPI),  
角田(MRI), 南(富士通), 井口(東大), 白方, 大谷(動  
燃), 土橋, 三谷(原研) 以上 15名)

#### 4. 配布資料

- (0) 炉定数専門部会全体会合議題
- (1) 炉定数専門部会メンバー (長谷川)
- (2) 炉定数専門部会活動経過資料 (長谷川)
- (3) JENDL 積分評価W.GS 61年度計画(案) (長谷川)
- (4) JENDL-data の使用経験情報の集積機関及び利用分野を横断する討論の  
場の必要性 (長谷川)
- (5) JEF-1遮蔽ライブラリー (長谷川)
- (6) JENDL-3データ評価者および連絡者一覧表 (浅見)
- (7) 遮蔽ベンチマーク実験解析に基づくJENDL-2のナトリウム断面積の積  
分テスト (桜井)

- |                               |       |
|-------------------------------|-------|
| (8) NEA 中性子黒鉛透過ベンチマーク実験の解析(5) | (桜井)  |
| (9) JENDL-3 の積分的検証            | (竹田)  |
| (10) JENDL-3 作成について           | (五十嵐) |
| (11) 遮蔽定数 SWG 活動報告            | (川合)  |
| (12) ナトリウムベンチマーク実験解析結果 (サマリー) | (川合)  |
| (13) ASPIS Fe 体系実験解析          | (長谷川) |

## 5. 議事

### 1. 事務局報告

#### 1. 1 S・61年度WG作業の進め方について

資料(10)に基づき五十嵐氏より61年度のW.Gの作業の進め方についての説明があった。その中でJENDL-3作成について予算がつきそれに伴い61年度のW.Gの作業形態がかなりかわりそうなこと、又、その流れは、ドラスティックではないものの委員会の性格も従来の実作業母体の委員会から通常の情報交換、検討の場に移っていく可能性が示唆された。

#### 1. 2 人事命令について

60年度人事、61年度の予定人事について長谷川氏から報告があった。

61年度新委員として桜井氏(安解所)、上松氏(NAIG)発令してほしい旨NAIG川合氏より話があった。

#### 1. 3 その他一般事項

本年度の本部会関連の一般事項について長谷川氏より話があった。

- 7月に核融合ニュートロニクスにおける核データ検討会があり、JENDL-3について、いくつかのリコメンデーションが出された。
- 11月にNEA DATA BANKからE.SARTORIが来てJEF-1遮蔽ライブラリー、NJOY-6/83-2コードについて討議の場をもった。
- 11月末にS.Pearlsteinが来てENDF/B-VIについての計画について日米協力の可能性が検討された。
- 88年5月に日本で核データ国際会議が開かれる予定。

- 61年11月にアジア地域の核データ研究会が本年度同様開かれる。

## 2. 各 W.G 活動報告及び来年度計画

### 2.1 専門部会メンバーについて

資料(1)に基づき長谷川氏より現在委員についてメンバー及び人員構成について報告があった。

事務局より委員の交代、参加は必ずW.Gリーダーを通じて事務局へ手続してほしい旨発言があった。

### 2.2 JENDL 積分評価 W.G

資料(2, 3)に基づき長谷川氏から活動経過並びに次年度作業計画案が紹介された。引き続き資料(9)に基づき竹田氏からJENDL-3の積分的検証についてより詳しい研究の内容が紹介された。

主なる論点

- 軽水炉に対するベンチマーク・テストは本W.Gの範囲外とする。解析手法による差が入りやすく断面積への feed back がかなり困難。
- HCLWRについて中速領域のチェックの為に adjust 等を考えてはいいかがか? C/E がはっきりしないため、なかなか難しいのでは!
- 標準的 data を積極的にとり入れていく。FCA の actinide についてもこの範囲で data が出たらとり入れていきたい。final results はもう少し先になる。
- 感度係数についてのテーブルが JAERI-M 86-004 で出版されるので利用をお願いしたい。

### 2.3 遮蔽定数 S.W.G

資料(11, 12)に基づき川合氏から、活動経過並びに次年度予定について報告があった。それに関連して春の年会での予稿 2 件が桜井氏より紹介があった。

主なる論点

- JENDL-2 data に対する一連のベンチマーク実験解析は次年度中に終了させる。
- Na-Fe 多重層系について検討をしなおす。

- Na・Fe とも JENDL-2 と ENDF/B-IV とでそれ程の差は表われていない。一方、大谷氏らの結果は桁違いの差が出ており、つめる必要がある。
- これに関して、長谷川氏より ASPI S Fe 体系解析結果（資料13）が発表され、JENDL-3 PR1 と ENDF/B-IV との差は余りないことが示された。
- 2 次γ線データのベンチ・マークテストへ次年度は入っていく。

#### 2.4 DDX S.W.G

中沢氏より本 S.W.G は初期の目的を完了し、本年度は休眠状態であったこと、当 W.G 開発のソフトと使用経験は核融合核データ W.G へ引つながれること、又遮蔽定数 SWG でも (14 MeV) 実験解析を行っているので、本 SWG を発展的に解消して遮蔽定数 W.G に吸収して本 SWG を一応終結したい旨の発言があり了承された。

従って核融合炉・遮蔽定数 W.G は SWG のない W.G となる。

#### 2.5 その他

当部会開発の下記 2 コードについて、OECD NEA DATA BANK より公開依頼があり、著者、コード管理者と連絡をとり公開を決めた旨長谷川氏より報告があった。

SAGEP：一般化摂動論に基づく 2 次元感度解析コード：

原、竹田、菊池 JAERI-M-84-027 (1984)

FAIR-DDX：2 重微分断面積 LIB 作成コード：

南、山野 JAERI-M-84-022 (1984)

### 3. JENDL-3 作成について

JENDL-3 作成についてその評価分担者と File の進捗状況について浅見氏より資料(6)に基づき説明があった。担当者ははっきりしているが進捗状況ははっきりとはつかめていない。今後担当者とあい、はっきりさせた上で完成時機をつめたい。いずれにしろ 62 年 3 月末に編集を終らせねばならないがそれはあくまで目標値。

主なる論点